

仙白園プロジェクト・人

通信No. 100



「仙白園プロジェクト・人」は、仙台白菜などを畑で育てる活動から発展して、様々な人たちと交流しながら、若者を中心に、社会・地域の一員として主体的に行動できる人づくりを目指しています。

平成25年4月から始まった、「仙白園プロジェクト・人」通信ですが、今回はなんと記念すべき100号です。コロナウィルス感染症の非常事態宣言とまん延防止措置期間だったため、8月と9月は活動ができなかったため、約2か月ぶりの活動となりました。

第一部は、若林区の沿岸部にある「海岸公園センターハウス」と「深沼海岸」を舞台に、サイダー販売とビーチクリーンを行いました。ビーチクリーンを行った方々に、「仙台絆サイダー」の趣旨をご理解いただき、多くの方々にサイダーを購入していただきました。3名の仙白園プロジェクトメンバーで力を合わせ、仙台絆サイダー97本を販売しました。

第二部は、「JR フルーツパーク仙台あらはま」へ移動し、研修会を行いました。荒浜事業所長の渡部様のお話を伺い、震災復興の取組について学びました。ビニールハウスの間にある道路は、もともとあった道路であること、「11りんご」などの「11」の数字が、元々あった「〇番地」の数字であることなど、震災前に荒浜地区に住んでいた方々の思いを大切にしていることを知り、胸が熱くなりました。今回も学びの多い1日となりました。お土産にいただいた「梨」は、とても甘くて、みずみずしくて、美味しかったです。ありがとうございました。



97本のサイダーを販売



深沼海岸のビーチクリーン



震災復興の取組について学習



震災前からある荒浜の道路

市民センターでは、新型コロナウイルス感染防止対策を行って活動しています。